



# Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 リ リースノート



Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-5895

Copyright 2006 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本書で説明する製品で使用されている技術に関連した知的所有権は、Sun Microsystems, Inc. に帰属します。特に、制限を受けることなく、この知的所有権には、米国特許、および米国をはじめとする他の国々で申請中の特許が含まれています。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品には、サードパーティーが開発した技術が含まれている場合があります。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

この製品は、米国の輸出規制に関する法規の適用および管理下にあり、また、米国以外の国の輸出および輸入規制に関する法規の制限を受ける場合があります。核、ミサイル、生物化学兵器もしくは原子力船に関連した使用またはかかる使用者への提供は、直接的にも間接的にも、禁止されています。このソフトウェアを、米国の輸出禁止国へ輸出または再輸出すること、および米国輸出制限対象リスト(輸出が禁止されている個人リスト、特別に指定された国籍者リストを含む)に指定された、法人、または団体に輸出または再輸出することは一切禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

# 目次

---

<b>1</b>	<b>概要</b> .....	7
	このリリースノートについて .....	7
	リリースノートの改訂履歴 .....	8
	アクセシビリティ機能 .....	8
	関連マニュアル .....	8
	問題の報告およびフィードバックの方法 .....	10
	コメントの送付先 .....	10
	補足情報 .....	11
<b>2</b>	<b>Application Server Platform Edition 8.2</b> について .....	13
	8.2 リリースの新機能 .....	13
	ハードウェアとソフトウェアの要件 .....	14
	プラットフォーム要件 .....	14
	重要パッチ情報 .....	15
	JDBC ドライバとデータベース .....	16
	バンドル版 Derby データベースの使用 .....	16
	ブラウザ .....	20
	Sun Java System Application Server のアップグレード .....	20
	その他の要件 .....	20
	8.2 リリースで修正されたバグ .....	21
	J2EE のサポート .....	23
	サポートされている別の J2SE バージョンへの切り換え .....	24
	▼サポートされている別の J2SE バージョンへ切り換えるには .....	24
<b>3</b>	<b>既知の問題と制限事項</b> .....	27
	管理 .....	27
	domain1 が存在しない場合、package-appclient スクリプトが動作しない。(ID 6171458) .....	27
	バックアップしたドメインを別の名前で復元できない。(ID 6196993) .....	28

JMX エージェントを追加した Application Server の起動はサポートされていない。(ID 6200011) .....	28
任意の仮想サーバーのデフォルト Web モジュールとなっている Web モジュールの再 配備または配備取り消しを行うことができない。(ID 6204799) .....	29
▼デフォルト Web モジュールを変更するには .....	29
Application Server GUI で AMX API を使用して PE サーバーに WAR および JAR を配備す ると、FrameworkError 例外が発生する。(ID 6201462) .....	29
設定内の Java ホームの設定が反映されない。(ID 6240672) .....	30
Selector.select() が IOException をスローし、Application Server の起動が失敗する。 (ID 6322825) .....	30
ドメインのマスターパスワードに特殊文字が含まれる場合、ドメインの起動が失敗す る。(ID 6345947) .....	31
特定の Java システムプロパティが AS 8.2 の起動時に正しく処理されない。(ID 6372759) .....	31
アプリケーションクライアント .....	31
アプリケーションクライアントアーカイブのライブラリ JAR が MANIFEST ファイル を上書きする。(ID 6193556) .....	31
CGI-bin や SHTML 機能などの動的コンテンツ技術がサポートされていない。(ID 6373043) .....	32
データベースドライバ .....	32
DB2 Type II ドライバによるアイドルタイムアウトのあとで DB2 Server の接続数が増加 する。(ID 2082209/5022904) .....	32
Deploytool .....	32
Deploytool が次の Sun 配備記述子に message-destination 要素を作成しないことが頻 繁にある。(ID 6197393) .....	32
▼既存の JNDI 名を編集するには .....	33
簡体字中国語の Deploytool で、「Home」が「installation directory」と誤って翻訳され ている。(ID 6203658) .....	34
マニュアル .....	34
記載されている監視機能の一部が Platform Edition に適用されない。(ID 6202255) .....	34
マニュアルで AppservPasswordLoginModule が AbstractPasswordLoginModule と記載さ れている。(ID 6229682) .....	35
8.2 PE のマニュアルページで --passwordfile の -w 短縮型オプションが不正。(ID 6373588) .....	35
いくつかの AMX インタフェースおよびメソッドについて、Javadoc が欠けているか間 違っています。(複数の ID) .....	35
インストール .....	35
インストーラおよびアンインストーラの「ようこそ」画面で、「次へ」のナビゲー ションボタンの表示に失敗することがある。(ID 4977191) .....	36
一部の Linux システムで、「完了」ボタンをクリックしたあとにインストールの終了	

でハングアップする。(5009728) .....	36
Linux 上のインストールラッパーで J2SE の検出およびブートストラップに問題が発生 することがある。(6172980) .....	36
▼Linux 上のブートストラップの問題を回避するには .....	37
ライフサイクル管理 .....	37
ejb-timer-service プロパティー <code>minimum-delivery-interval</code> を 9000 に設定したあと で、ejb-timer-service プロパティー <code>redelivery-interval-in-mills</code> を 7000 に設定し ようとする、set コマンドが次のエラーで失敗する。(ID 6193449) .....	37
ログ .....	38
access.failure のデバッグ文を設定すると、Application Server の起動時にハングす る。(ID 6180095) .....	38
サンプルアプリケーション .....	38
managementws サンプルで、MANIFEST.MF の参照を <code>castor-0.9.3.9-xml.jar</code> から <code>castor-0.9.9.1.jar</code> に更新する必要がある。(ID 6363339) .....	38
セキュリティ .....	40
WSセキュリティ: アプリケーションクライアントコンテナが JAXRPC クライアント ランタイムと正しく統合されていない。(ID 6325469) .....	40
アップグレードユーティリティ .....	40
Application Server Platform Edition 8 から Application Server Platform Edition 8.2 への アップグレードで、 <code>install_dir/domains</code> ディレクトリ以外のカスタムパスに作成され たドメインが直接アップグレードされない。(ID 6165528) .....	41
8.0 Platform Edition から 8.2 Platform Edition へのアップグレード後、 <code>domain1</code> または <code>samples</code> ドメインの起動時にポートの衝突が発生する。(ID 6202188) .....	41
▼ポート値を変更するには .....	41
一部の Linux システムで「アップグレードウィザードを起動」ボタンをクリックした あとに、「同じ場所にアップグレード」を実行するインストーラがアップグレード ツールの起動に失敗する。(6207337) .....	41
▼コマンド行インストールモードを使用するには .....	42
アップグレード後、「結果」パネルに不要な文字が表示される (ID 6376140) .....	42
Web コンテナ .....	42
<code>--precompilejsp=true</code> を使用してアプリケーションを配備すると、アプリケーション の JAR ファイルがロックされ、その後の配備取り消しや再配備に失敗することがあ る。(Windows のみ) (ID 5004315) .....	42
空の <code>&lt;load-on-startup&gt;</code> 要素を持つ Servlet 2.4 ベースの <code>web.xml</code> を使用して WAR を配 備できない。(ID 6172006) .....	43
リソースに制約のあるサーバー上で JSP ページをコンパイルできない。(ID 6184122) .....	44
マルチ CPU のマシンでパフォーマンスが低下する。(ID 6194026) .....	45
不正な Fast Infoset ドキュメントを受け取ると、JAX-RPC 配備サービスの Fast Infoset サポートが無効になることがある。(ID 6368670) .....	45





# 1

## 概要

---

Sun Java™ System **Application Server Platform Edition 8.2** 製品は、J2EE アプリケーションおよび Java Web サービスの開発と配備に利用できる J2EE 1.4 プラットフォーム互換サーバーです。このサーバーを業務用に使用する場合も費用は発生しません。Sun Java System Application Server Platform Edition は、開発、配備、および再頒布のために自由に使用できます。再頒布を検討している場合は、再頒布ライセンスについて [Sun OEM sales \(http://www.sun.com/software/products/appsrvr/appsrvr\\_oem.html\)](http://www.sun.com/software/products/appsrvr/appsrvr_oem.html) にお問い合わせください。

このリリースノートには、次の内容が含まれます。

- 7 ページの「このリリースノートについて」
- 8 ページの「リリースノートの改訂履歴」
- 8 ページの「アクセシビリティ機能」
- 8 ページの「関連マニュアル」
- 10 ページの「問題の報告およびフィードバックの方法」
- 10 ページの「コメントの送付先」
- 11 ページの「補足情報」

### このリリースノートについて

このリリースノートには、Sun Java System Application Server 8.2 のリリース時点で入手できる重要な情報が含まれています。新機能、拡張機能、既知の問題と制限事項などについて説明します。Application Server 8.2 をご使用になる前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新バージョンは、Sun Java System の [マニュアル Web サイト \(http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv#hic/\)](http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv#hic/) に掲載されています。ソフトウェアをインストールおよび設定する前にこの Web サイトを確認してください。また、その後も定期的に Web サイトを確認して、最新のリリースノートや製品マニュアルを参照してください。

このリリースノートでは、関連情報が提供されているサードパーティーの URL も示しています。

---

注-Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティーの Web サイトの利用可能性について責任を負いません。これらのサイトまたはリソースから得られるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料について、Sun はなんら保証するものではなく、いかなる責任も負いません。こうしたサイトまたはリソースから取得したコンテンツ、商品、サービスを利用または信頼することに起因する損害または損失について、Sun は一切の責任を負いません。

---

## リリースノートの改訂履歴

この節では、リリースノートの改訂履歴を示します。

表1-1 リリースノートの改訂履歴

改訂日付	説明
2006 年 1 月	Sun Java SystemApplication Server 8.2 製品の初版リリース。
2006 年 2 月	編集全般の終了。Red Hat パッチ RPM の URL を更新。
2006 年 3 月	問題点を追加。修正されたバグの一覧を更新。

## アクセシビリティ機能

このメディアの出版以降にリリースされたアクセシビリティ機能を入手するには、米国リハビリテーション法 508 条に関する製品評価資料を Sun に請求し、その内容を確認して、どのバージョンが、アクセシビリティに対応したソリューションを配備するためにもっとも適しているかを特定してください。アプリケーションのアップデートされたバージョンは次の場所にあります。<http://sun.com/software/javaenterprisesystem/get.html>

アクセシビリティ機能に対する Sun のコミットメントについては、<http://sun.com/access> を参照してください。

## 関連マニュアル

リリースノートに加えて、Application Server 製品にはマニュアルセット ([http://docs.sun.com/app/docs/coll/ApplicationServer8\\_pe\\_04q4](http://docs.sun.com/app/docs/coll/ApplicationServer8_pe_04q4)) が用意されています。

次の表に、Application Server コアアプリケーションのマニュアルセットに含まれるものを要約して示します。



表 1-2 マニュアルセットの内容

マニュアルのタイトル	説明
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Quick Start Guide』	Sun Java System Application Server 製品を使い始めるための入門ガイド。
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Installation Guide』	Sun Java System Application Server ソフトウェアとそのコンポーネントのインストール。
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Developer's Guide』	Sun Java System Application Server 上で動作することを目的とし、J2EE コンポーネントおよび API のオープン Java スタンドモデルに準拠した、Java™ 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE™ プラットフォーム) アプリケーションの作成と実装。開発ツール、セキュリティ、アセンブリ、配備、デバッグ、ライフサイクルモジュールの作成などについての全般的な情報も提供します。
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 J2EE Tutorial』	J2EE アプリケーションを開発するための J2EE 1.4 プラットフォームテクノロジーおよび API の使用と、それらアプリケーションの Sun Java System Application Server への配備。
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Administration Guide』	Sun Java System Application Server サブシステムおよびコンポーネントの、管理コンソールからの設定、管理、および配備。
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Administration Reference』	Sun Java System Application Server 設定ファイル <code>domain.xml</code> の編集。
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Upgrade and Migration Guide』	新しい Sun Java System Application Server プログラミングモデルへのアプリケーションの移行 (特に Application Server 6.x または 7 からの移行)。このマニュアルでは、製品リリース間の相違点と、製品仕様との不一致を招く可能性のある設定オプションについても説明します。
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Troubleshooting Guide』	Sun Java System Application Server におけるトラブルの解決。
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Error Message Reference』	Sun Java System Application Server のエラーメッセージの解決。

表1-2 マニュアルセットの内容 (続き)

マニュアルのタイトル	説明
『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Reference Manual』	Sun Java System Application Server で使用できるユーティリティーコマンド。マニュアルページのスタイルで記述されています。asadmin コマンド行インタフェースも含まれます。

## 問題の報告およびフィードバックの方法

Sun Java System Application Server に問題が発生した場合は、次のいずれかの方法で Sun のカスタマサポートにお問い合わせください。

- **フィードバック送信フォーム:** Application Server 製品についてのフィードバックを送信するためのフォーム (<http://java.sun.com/docs/forms/J2EE14SubmittalForm.html>) です。
- **J2EE-INTEREST リスト:** J2EE に関する質疑を扱うメーリングリスト (<http://archives.java.sun.com/archives/j2ee-interest.html>) です。
- **Java Developer Connection** のバグデータベース: バグを閲覧または報告するには、Java Developer Connection Bug Parade (<http://developer.java.sun.com/servlet/SessionServlet?url=/developer/bugParade/index.jshtml>) をご利用ください。
- **Java Technology Forums:** Java テクノロジーおよびプログラミング技法に関する知識と疑問を共有するための対話型メッセージボードです。Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 製品に関連する議論には、**J2EE SDK forum** (<http://forum.java.sun.com/>) を使用してください。
- **Sun Software Support** サービス: <http://www.sun.com/service/sunone/software> からオンラインで利用できます。  
このサイトには、保守プログラム、サポート連絡先に加えて、ナレッジベース、オンラインサポートセンター、および製品トラッカへのリンクが用意されています。
- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。  
最善の問題解決のため、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。
- 問題が発生した箇所や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および、問題の原因と思われるパッチやそのほかのソフトウェアなどの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログやコアダンプ

## コメントの送付先

Sun では、マニュアルの改善に努めており、お客様のご意見、ご提案をお待ちしております。

<http://docs.sun.com> にアクセスして「コメントの送信」をクリックしてください。このオンラインフォームでは、マニュアルのタイトルと Part No. もご記入ください。Part No. は、7桁か9桁の番号で、マニュアルのタイトルページまたは最初のページに記載されています。たとえば、このリリースノートの場合、タイトルは『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 リリースノート』、Part No. は 819-5895 です。

## 補足情報

以下の場所から有益な情報を入手することができます。

- Application Server の製品情報  
([http://www.sun.com/software/products/appsrvr/home\\_appsrvr.html](http://www.sun.com/software/products/appsrvr/home_appsrvr.html))
- Application Server の製品マニュアル (<http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv#hic/>)
- Sun Java System マニュアル (<http://docs.sun.com/prod/java.sys>)
- Sun Java System プロフェッショナルサービス  
(<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>)
- Sun Java System ソフトウェア製品とサービス (<http://www.sun.com/software>)
- Sun Java System Software Support Services (<http://www.sun.com/service/sunone/software>)
- Sun Java System サポートと Knowledge Base  
(<http://www.sun.com/service/support/software>)
- Sun サポートおよびトレーニングサービス (<http://training.sun.com>)
- Sun Java System コンサルティングとプロフェッショナルサービス  
(<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>)
- Sun Java System 開発者情報 (<http://developers.sun.com>)
- Sun 開発者サポートサービス (<http://www.sun.com/developers/support>)
- Sun Java System ソフトウェアトレーニング (<http://www.sun.com/software/training>)
- Sun Software Data Sheets (<http://www.sun.com/software>)
- Sun Microsystems の製品マニュアル (<http://docs.sun.com/>)



# Application Server Platform Edition 8.2 について

---

Sun Java™ System **Application Server Platform Edition 8.2** は、J2EE アプリケーションおよび Java テクノロジベースの Web サービスの開発と配備に利用できる J2EE 1.4 プラットフォーム互換サーバーです。

この章には、次の内容が含まれます。

- 13 ページの「8.2 リリースの新機能」
- 14 ページの「ハードウェアとソフトウェアの要件」
- 21 ページの「8.2 リリースで修正されたバグ」
- 23 ページの「J2EE のサポート」
- 24 ページの「サポートされている別の J2SE バージョンへの切り換え」

## 8.2 リリースの新機能

Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 は、次に示す多くの新機能を実装しています。

- J2EE 1.4 互換性。
- (改良点) NetBeans 5 の利用と、配備速度、実行時占有領域、および起動時間の向上によって、開発者に卓越した環境を提供。NetBeans 5.0 には、デフォルトの J2EE ランタイムとして Application Server 8.2 が含まれます。
- (新規) マルチコア/マルチスレッドのアーキテクチャーをサポートする優れたスループット性能とスケラビリティ。
- (新規) Fast Infoset のサポートにより、Web サービスのパフォーマンスが何倍も向上。
- (新規) Application Server 8.2 では、新たに Red Hat 4 および My SQL5 をサポート。サポートされるオペレーティングシステムとデータベースドライバの一覧については、[14 ページの「ハードウェアとソフトウェアの要件」](#)を参照してください。
- (新規) 配備可能な Derby データベースを Application Server 8.2 にバンドル。これにより、エンドツーエンドの J2EE アプリケーションの開発と配備が可能です。

- (新規) 組み込み JMS リソースアダプタによるバックエンドシステムとの容易な接続。Application Server 8.2 は、IBM MQ シリーズと Sun の MQ Server との接続をサポートします。
- (更新) J2EE 1.4 ブループリントの拡張。Application Server 8.2 で AJAX などの Web 2.0 テクノロジを使用する例を紹介しています。
- JavaServer Faces のサポート: 開発者は、再利用可能な UI コンポーネントをページ内でアセンブルし、それらコンポーネントをデータソースに接続し、クライアント側で生成されるイベントをサーバー側のイベントハンドラに結びつけることで、Web アプリケーションをすばやく構築できます。
- 改良された管理コンソール: Application Server 8.2 の管理コンソールには、JNDI ネームスペースブラウザ、JDBC 接続検証、開発記述子ビューア、エラーログビューア、拡張監視などの機能による新しい表示と操作性が追加されています。
- Web サービスセキュリティー: コンテナメッセージセキュリティー機構により、OASIS WS-Security 標準の X509 およびユーザー名/パスワードのプロファイルを使用した SOAP Web サービスの呼び出しに関するメッセージレベルでの認証 (XML デジタル署名と暗号化など) を実現しています。
- JavaServer Pages Standard Tag Library 1.1 のサポート: 多くの JSP アプリケーションに共通するコア機能をカプセル化したライブラリ。
- (更新) J2SE 5.0\_06 をバンドル。

Sun Java System Application Server Platform Edition の開発、配備、および再頒布は自由に行うことができます。再頒布を検討している場合は、再頒布ライセンスについて [Sun OEM sales \(http://www.sun.com/software/products/appsrvr/appsrvr\\_oem.html\)](http://www.sun.com/software/products/appsrvr/appsrvr_oem.html) にお問い合わせください。サポートを受けるには、追加料金が必要となります。Java 2 Platform, Enterprise Edition のライセンスについてお問い合わせいただく場合は、[このフォーム \(http://java.sun.com/j2ee/license\\_form.html\)](http://java.sun.com/j2ee/license_form.html) にご記入ください。

## ハードウェアとソフトウェアの要件

この節では、Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 製品をインストールする前に満たしている必要のある要件を示します。

- 14 ページの「プラットフォーム要件」
- 15 ページの「重要パッチ情報」
- 16 ページの「JDBC ドライバとデータベース」
- 16 ページの「バンドル版 Derby データベースの使用」
- 20 ページの「ブラウザ」
- 20 ページの「Sun Java System Application Server のアップグレード」
- 20 ページの「その他の要件」

### プラットフォーム要件

次の表に、Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 製品でサポートされているオペレーティングシステムを示します。

表 2-1 サポートされるオペレーティングシステム

オペレーティングシステム	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量	JVM
Sun Solaris 9、10 (SPARC) Solaris 9、10(x86)	512M バイト	512M バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE 1.4.2_10、 J2SE 5_06
Sun Java Desktop System	512M バイト	1G バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE 1.4.2_10、 J2SE 5_06
Redhat Enterprise Linux 3.0 U1、4.0	512M バイト	1G バイト	250M バイトの空き領域	500M バイトの空き領域	J2SE 1.4.2_10、 J2SE 5_06
Windows Server 2000 SP4+ Windows 2000 Advanced Server SP4+ Windows Server 2003 Windows XP Pro SP1+	1G バイト	2G バイト	500M バイトの空き領域	1G バイトの空き領域	J2SE 1.4.2_10、 J2SE 5_06

UNIX™ では、オペレーティングシステムのバージョンを `uname` コマンドで確認できます。ディスク容量は `df` コマンドで確認できます。

注 - Microsoft Windows プラットフォームで Application Server を実行している場合は、FAT や FAT32 ではなく NTFS ファイルシステムを使用する必要があります。

### 重要パッチ情報

現時点で Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 に必要なパッチについては、<http://sunsolve.sun.com> にアクセスして「Patches」または「Patch Portal」を選択してください。Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 のリンクをたどります。オペレーティングシステムのパッチ要件が変わって Java Enterprise System コンポーネントに対するパッチが利用可能になると、最初は推奨パッチクラスタとして SunSolve からアップデートが入手可能になります。

### Solaris のパッチ要件

Solaris 8、9、または 10 (x86 または SPARC) を使用する場合には、「Sun 推奨パッチクラスタ」をインストールすることをお勧めします。このパッチクラスタは SunSolve (<http://sunsolve.sun.com/>) Web サイトの「推奨 & セキュリティパッチ」から入手できます。

## RedHat Enterprise Linux 3.0 の追加パッケージ要件

インストーラをはじめとして、この製品のネイティブコンポーネントを実行するには、標準の RedHat Enterprise Linux 3.0 ディストリビューションには含まれていないパッケージ `compat-libstdc++-7.3-2.96.118.i386.rpm` をインストールする必要があります。このパッケージは、<http://rpm.pbone.net/index.php3/stat/4/idpl/843376/com/compat-libstdc++-7.3-2.96.118.i386.rpm.html> からダウンロードできます。

## JDBC ドライバとデータベース

Sun Java System Application Server Platform Edition は、対応する JDBC ドライバを備えた任意の DBMS への接続をサポートするように設計されています。Sun によるテストが行われ、J2EE と互換性のあるデータベース設定の構築に使用できると確認されたコンポーネントを、次の表に示します。

表 2-2 J2EE 準拠の JDBC ドライバ

JDBC ベンダー	JDBC ドライバのタイプ	サポートされるデータベースサーバー
i-net Software	Type 4	Oracle (R) 8.1.7、9i、9.2.0.3+、10.1.x、10.2.x Sybase ASE 12.5 Microsoft SQL Server 2000 4.0 Service Pack 1
IBM	Type 2	IBM DB2 8.1 Service Pack 3+
Derby	Type 4	Apache Derby 10.1.2.1
PointBase	Type 4	PointBase Network Server 5.2
MySQL	Type 4	5.x
DataDirect	Type 4	Oracle (R) 8.1.7、9i、9.2.0.3+、10.1.x、10.2.x Sybase ASE 12.5.2 Microsoft SQL Server IBM DB2 8.1 Service Pack 3+
Oracle	Type 4、Type 2	Oracle (R) 9.2.0.3+、10.1.x、10.2.x

## バンドル版 Derby データベースの使用

この節では、Application Server 8.2 にバンドルされている Derby データベースの実装を使用する手順について説明します。

- 17 ページの「Derby データベースの起動と停止」
- 17 ページの「Derby ユーティリティスクリプト」
- 18 ページの「Pointbase から Derby へのテーブルのエクスポート」



## Derby データベースの起動と停止

Sun Java System Application Server 8.2 には、Derby Network Server の開始と停止を行うための 2 つの新しい `asadmin` コマンドが導入されています。

- `start-database` コマンドを使用すると、Derby Network Server のインスタンスを起動できます。

```
start-database [--dbhost 0.0.0.0] [--dbport 1527] [--dbhome path/derby]
```

ホストのデフォルト値は `0.0.0.0` です。この値によって、Derby は IP/ホスト名のインタフェースと同様に `localhost` で待機できます。dbhome プロパティの値は、Derby データベースの格納場所を示しています。デフォルトの path は `<appserver_install_dir>/derby` です。

- `asadmin stop-database` コマンドを使用すると、実行中の Derby ネットワークサーバーのインスタンスをシャットダウンできます。

```
stop-database [--dbhost 0.0.0.0] [--dbport 1527]
```

## Derby ユーティリティースクリプト

Application Server 8.2 とともに出荷される Derby の構成には、Derby の使用に役立つ便利なスクリプトも含まれます。`<appserver_install_dir>/derby/frameworks/NetworkServer/bin` ディレクトリには、次の使用可能なスクリプトがあります。

- `startNetworkServer.ksh/bat`: ネットワークサーバーを開始するスクリプト
- `stopNetworkServer.ksh/bat`: ネットワークサーバーを停止するスクリプト
- `ij.ksh/bat`: 対話式の JDBC スクリプト記述ツール
- `dblook.ksh/bat`: データベースの DDL の全部または一部を表示するスクリプト
- `sysinfo.ksh/bat`: Derby 環境に関するバージョン情報を表示するスクリプト
- `NetworkServerControl.ksh/bat`: NetworkServerControl API でコマンドを実行するためのスクリプト

## ▼ Derby ユーティリティースクリプトを実行するために環境を設定するには

- 1 `<appserver_install_dir>/derby` ディレクトリをポイントするように、`DERBY_INSTALL` 環境変数を設定します。
- 2 `CLASSPATH` 環境変数の設定を解除します。
- 3 次のプロパティを設定することもできます。
  - a. `DERBY_SERVER_HOST` をネットワークサーバーの待機先ホストとして設定します。`0.0.0.0` に設定すると、すべてのリスナーを有効にできます。

b. DERBY\_SERVER\_PORT をネットワークサーバーの待機先ポート番号として設定します。

参照 これらのユーティリティーの詳細については、Derby のツール (<http://db.apache.org/derby/docs/10.1/tools/>) および Admin (<http://db.apache.org/derby/docs/10.1/adminguide/>) に関するガイドを参照してください。

### Pointbase から Derby へのテーブルのエクスポート

この例は、Pointbase のテーブルの DDL をキャプチャーし、Netbeans 5.0 を使用して Derby に同じテーブルを作成する方法を示しています。これと同じ事を行うには、コマンドツールと unload database コマンドを使用する方法もあります。

```
./startcommander.sh
Do you wish to create a new Database. (Yes (Y) or No (N))? [default: N]:
Enter product to connect with: (Embedded (E) or Server (S))? [default: E]: e
Enter driver to use? [default: [com.pointbase.jdbc.jdbcUniversalDriver]:
Enter database URL? [default: [jdbc:pointbase:embedded:sample]:
Enter Username? [default: PBPUBLIC]:
Enter Password? [default: PBPUBLIC]:
```

```
PointBase Commander 5.2 ECF build 294 size restricted version EMBEDDED
```

```
Interactive SQL command language. SunOS/5.9
```

```
(C) Copyright 2004 DataMirror Mobile Solutions, Inc. All rights reserved.
```

```
Licensed to: Sun_customer_demo_use
For commercial version contact PointBase at:
pointbase.com
PHONE: 1-877-238-8798 (US & CANADA)
       1-408-961-1100 (International)
WEBSITE: www.pointbase.com
```

```
SQL>unload database sampledb.sql;
SQL> unload database sampledb.sql;
SQL> 13 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.CUSTOMER_TBL)
SQL> 4 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.DISCOUNT_CODE_TBL)
SQL> 30 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.MANUFACTURE_TBL)
SQL> 11 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.MICRO_MARKETS_TBL)
SQL> 9 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.OFFICE_TBL)
SQL> 4 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.OFFICE_TYPE_CODE_TBL)
SQL> 15 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.ORDER_TBL)
SQL> 6 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.PRODUCT_CODE_TBL)
SQL> 30 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.PRODUCT_TBL)
SQL> 10 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.SALES_REP_DATA_TBL)
SQL> 10 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.SALES_REP_TBL)
SQL> 52 Row(s) Unloaded. (PBPUBLIC.SALES_TAX_CODE_TBL)
```

```
SQL> 12 Table(s) Unloaded.
SQL> quit;
```

この例の `unload database` コマンドを実行した結果は、`sampledb.sql` ファイルに書き込まれます。`sampledb.sql` ファイルには、必要なテーブルとインデックスを作成するために必要となる DDL がすべて含まれています。また、データベースにデータを挿入しなおすための DML も含まれます。コマンドの `RUN` コマンドは、生成されたスクリプトを使用して別の Pointbase データベースにデータをインポートするために使用されます。生成されたファイル内の `INSERT` 文と関連するデータの例を次に示します。

```
INSERT INTO "ADVENTURE"."CATEGORY" (
"CATID", "LOCALE", "NAME", "DESCRIPTION", "IMAGEURI" )
VALUES( ?, ?, ?, ?, ? );
{
'ISLAND          ', 'en_US', 'Island Adventures', 'Experience an island /
paradise in a way fit for your needs.', 'Island_Adventures.gif'
'JUNGLE          ', 'en_US', 'Jungle Adventures', 'Experience a jungle /
paradise in a way fit for your needs.', 'Jungle_Adventures.gif'
'MOUNTAIN        ', 'en_US', 'Mountain Adventures', 'Experience an /
elevated paradise with a view.', 'Mountain_Adventures.gif'
'ORBITAL         ', 'en_US', 'Orbital Adventures', 'Experience a vacuum /
paradise with a beautiful view and where no one can hear you scream.', /
'Space_Adventures.gif'
'WESTERN         ', 'en_US', 'Western Adventures', 'Enjoy the Wild West. /
', 'Western_Adventures.gif'
'SOUTH_POLE      ', 'en_US', 'South Pole Adventures', 'Experience a /
frozen paradise in a way fit for your needs.', 'SouthPole_Adventures.gif'
};
```

コマンドの `unload database` コマンドによって生成されたファイルを、DDL だけで構成されるように簡単に編集できます。たとえば、`insert` 文を処理するプログラムを記述することは難しくありません。簡単なテストとして、Pointbase `sample` データベースに対して `unload database` コマンドを使用し、生成されたスクリプトを編集して次のように変更します。

- すべての `CREATE Table` 文の末尾から `Organization Heap` という部分を削除します。
- `COMMIT` コマンドを削除します。
- ブール値 `datatype` を `smallint` に変更します。
- すべての `INSERT` 文とそれに関連するデータを削除します。

次に、簡単な Ant スクリプトを使用し、`sql` ターゲットを使用して DDL を実行します。最後に、`sun-appserv-samples` データベースに対して同じ試行を繰り返します。このとき、生成された SQL ファイルに次の変更を追加する必要があります。

- サンプルのデータベースに対して、ここで説明した変更をすべて加えます。
- `create user` コマンドを削除します。
- `SET PATH` コマンドを削除します。
- `Decimal` の精度を 38 から 31 以下に変更します。
- `float` の精度を 64 から 52 以下に変更します。

- CREATE PROCEDURE コマンドの SPECIFIC キーワードは現在サポートされていません。
- GRANT コマンドを削除します。

Pointbase の Java プロシージャを Derby で動作するように変換するには、CREATE PROCEDURE 文と同様に Java コードも変更する必要があります。Derby の Java プロシージャの詳細については、[Derby Reference manual](http://db.apache.org/derby/docs/10.1/ref/) (<http://db.apache.org/derby/docs/10.1/ref/>) を参照してください。Boolean データ型は、次期リリースの Derby でサポートされる予定です。

## ブラウザ

この節では、Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 管理コンソールおよび『Quick Start Guide』でサポートされるブラウザを示します。Application Server 上のアプリケーションの実行時にサポートされるブラウザは、実行中のアプリケーションによって異なります。

表2-3 サポートされるブラウザ

ブラウザ	バージョン
Mozilla	1.4、1.5、1.6、1.7.x
Netscape Navigator	6.2、7.0
Internet Explorer	5.5 Service Pack 2、6.0
Firefox	1.x

## Sun Java System Application Server のアップグレード

以前のバージョンの Application Server から Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 にアップグレードするための詳細な手順については、『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Installation Guide』を参照してください。

## その他の要件

Sun Java System Application Server ソフトウェアをインストールする前に、次の追加の要件が満たされるようにしてください。

- 空き容量: 一時ディレクトリに、Sun Java System Application Server のインストール用に少なくとも 200M バイトの空き領域と、SDK のインストール用に 250M バイトの空き領域が必要です。
- アンインストーラの使用: システムから Application Server を削除する場合、ソフトウェアに含まれるアンインストーラを使用することが重要です。他の方法を使用して削除すると、同じバージョンの再インストールや新しいバージョンのインストールを行うときに問題が発生する可能性があります。
- 使用可能なポート: 未使用のポートが 7 つ必要です。

- インストーラは、使用されているポートを自動的に検出し、その時点で未使用のポートをデフォルトの設定として示します。デフォルトでは、HTTP については 8080、HTTPS については 8181、Administration Server については 4848 が初期デフォルトポートです。
- インストーラは、使用されているポートを検出し、それ以外の2つのポートを割り当てます。1つは Sun Java™ System Message Queue (デフォルトで 7676)、もう1つは IIOP (デフォルトで、IIOP については 3700 および IIOP/SSL については 3820 と 3890) です。これらのデフォルトポート番号が使用されている場合、インストーラは動的ポートの範囲から無作為にポート番号を割り当てようとしてます (これは利用可能な次のポート番号とはかぎらない点に注意)。

インストール済みサーバーの起動 (UNIX): インストール済みサーバーを置き換える場合以外は、Sun Java System Application Server 8.2 のインストール処理を開始する前に、インストール済みサーバーを起動してください。インストーラが使用中のポートを検出するため、使用中のポートがほかの目的に使用されることはありません。

- インストール済みサーバーの置き換え (UNIX): 古いバージョンの Sun Java System Application Server がインストールされており、それを現在のバージョンの Application Server に置き換える場合は、新しいサーバーをインストールする前に、インストール済みサーバーを停止してください。
- ファイアウォールのシャットダウン (Microsoft Windows): Sun Java System Application Server ソフトウェアをインストールする前に、すべてのファイアウォールソフトウェアを停止する必要があります。一部のファイアウォールソフトウェアはデフォルトですべてのポートを無効にするからです。インストーラは、使用可能なポートを正確に検出できる必要があります。

互換性の詳細については、『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Upgrade and Migration Guide』を参照してください。

## 8.2 リリースで修正されたバグ

- |         |   |
|---------|---|
| 6184864 | where 句に OR 演算子および単一値の cmr ナビゲーションが含まれる場合、EJBQL クエリーに一致する結果の一部が含まれない可能性がある。               |
| 6198981 | 新規 Web サービスウィザードのパネル表示が崩れている。   |
| 6207862 | - asadmin create-domain --help コマンドによって誤った使用方法が表示される。不正なオプション (--admin.jmxport) が記述されている。 |
| 6155080 | java-method によるターゲットメッセージの指定が、client-side message-security-binding 要素で無効となる。              |
| 6173248 | AMX API を使用してサーバーから J2EE アプリケーションの参照を削除すると、アプリケーションは削除されるが、その後もアプリケーションにアクセスできる。          |
| 6360646 | AS 8.2 PE/EE: 可能であれば PlatformMBeanServer を使用する。   |
| 6295215 | DOCS: java.sql.statement.getConnection() が、接続のプールに関して javadoc の仕様を満たしていない。                |

- 6290666 ポート 8080 を停止および削除したあとも、ドメインから解放されない。
- 6286688 JMS 接続ファクトリを初めて作成したときに、トランザクションサポート値を保存できない。
- 6298257 Application Server 8.1 UR2 PE で、asant を Windows 2000 で実行できない。コマンドが長すぎるというエラーが返される。
- 6320008 リッチクライアント RMI-IIOP フェイルオーバーのテストに失敗する。
- 6347544 Grizzly ARA のサポートを 8.2 でバンドル。
- 6275566 Application Server 8.1 仮想サーバーのアクセスログの場所が更新されない。
- 6351023 JMS の汎用 RA を AS 8.2 に統合する必要がある。
- 6288752 XA トランザクションログのディスク I/O 頻度が高すぎる。
- 6356910 制御する TTY からの関連付けを解除して、Application Server 8.x のネイティブ起動プログラムを Bourne シェルで使いやすくする。
- 6307510 S1AS 7.0/SJAS7.1: EJBC/RMIC が生成する STUB/Skel のパッケージ名が完全修飾名ではない。
- 6286783 サーバーは二重の Content-Length ヘッダーを持つ要求を拒否する必要がある。
- 6207862 asadmin create-domain --help によって CVS のマージ文字が生成され、文字化けする。
- 6377830 次のユーザーが同じ接続を使用すると、setAutoCommit の false 設定が伝播される。
- 6317857 配備の取り消し: MBean 登録解除のエラー。
- 6284124 サブレットコンテナ UTF-8 URI マッピングの問題。
- 6276218 インストールパスの領域で Deploytool が動作しない。
- 6211979 ファイルベースのルート以外のインストールで配備コマンドが失敗する。
- 6354545 Windows の配備でハングする。
- 6283805 配備済みのアプリケーションをアップグレードすると、アクセスできなくなる。
- 6327037 配備のパフォーマンスを向上させる必要がある。
- 6270387 ejbc 実行中のエラー -- EJB コンパイラからの致命的なエラーで再配備に失敗することがある。
- 6258619 配備取り消しによって解放されないファイルがある。
- 6276021 WAR ファイルの再配備 (Creator のリモート配備) が失敗する。

6330332 配備および配備取り消しのシナリオで AS8102 メモリーリークが発生する (6324399 EJBCClassLoader からの SubCR)。

## J2EE のサポート

Sun Java System Application Server 8.2 は、J2EE 1.4 および Java EE 5 プラットフォームをサポートしています。J2EE 1.4 プラットフォームで使用できる拡張 API を、次の表に示します。

表 2-4 J2EE 1.4 プラットフォームの主要な API の変更点

API	説明
<b>コンポーネント</b>	
Application および Application Client	XML スキーマによる標準配備記述子の実装
Enterprise JavaBeans (EJB) 2.1	タイマーサービスと EJB Web サービスエンドポイント
Java Servlet 2.4	Web サービスエンドポイントのフィルタ
JavaServer Pages (JSP) 2.0 アーキテクチャー	式言語とタグライブラリ
J2EE Connector Architecture 1.5	着信リソースアダプタと Java Message Service (JMS) プラグイン可能性
<b>Web サービス</b>	
Java Web Services Developer Pack 1.5	XML アプリケーション、Web サービス、および Web アプリケーションを構築、テスト、および配備するための統合ツールキット
Java API for XML-based Remote Procedure Calls (JAX-RPC) 1.1	WSDL と Java テクノロジーのマッピングと、Web サービスクライアントおよびエンドポイントの開発のサポート
WS-I Basic Profile 1.0	WSDL と SOAP による相互運用の有効化要素
SOAP with attachment API for Java (SAAJ) 1.2	SOAP ベースのメッセージングのための API で、ファイルの添付された SOAP メッセージの作成を促進します
Java APIs for XML Registries (JAXR) 1.0	Universal Description Discovery and Integration (UDDI および ebXML) などの XML レジストリにアクセスするための統一された標準 API
<b>その他</b>	
J2EE Deployment 1.1	J2EE のコンポーネントおよびアプリケーションの配備を可能にする標準 API
J2EE Management 1.0	J2EE プラットフォームを管理するための情報モデルの定義
Java Management Extensions (JMX) 1.2	標準的な管理 API

表 2-4 J2EE 1.4 プラットフォームの主要な API の変更点 (続き)

API	説明
Java Authorization Contract for Containers (JACC) 1.0	J2EE Application Server と 認証ポリシープロバイダとの間でのセキュリティ規約の定義
Java API for XML Processing (JAXP) 1.2	XML ドキュメントを解析および変換するための API であり、XML スキーマの処理もサポートします
JMS 1.1	J2EE アプリケーションコンポーネントがメッセージを作成、送信、受信、および読み取りができるためのメッセージング標準であり、キューとトピックのための統一された API もサポートします
JavaMail 1.3	メールシステムをモデル化する抽象クラスの集合であり、API の小規模なアップデートも含まれます

## サポートされている別の J2SE バージョンへの切り換え

Sun Java System Application Server 8.2 は、基礎となる JVM として J2SE 1.4.2 と J2SE 5.0 の両方をサポートします。J2SE を別のバージョンに切り替える場合は、次の一般的な手順に従います。(Windows および Unix)

### ▼ サポートされている別の J2SE バージョンへ切り換えるには

- 1 必要に応じて、**J2SE SDK (JRE ではない)** をダウンロードしてインストールします。  
J2SE SDK は、<http://java.sun.com/j2se> からダウンロードできます。
- 2 **Application Server** を完全に停止します。  
次のコマンド行を使用できます。  
`as-install/bin/asadmin stop-domain`  
または、管理コンソールの GUI で次の手順に従います。
  - a. 「アプリケーションサーバー」ノードをクリックします。
  - b. 「インスタンスの停止」をクリックします。
- 3 `install_dir/config/asenv.conf` ファイル (**Windows** では `asenv.bat`) を編集して、新しい J2SE のホームディレクトリをポイントするように `AS_JAVA` の値を変更します。
- 4 `as-install/samples/common.properties` ファイルを編集して、**J2SE** の新しいホームディレクトリを参照するように `com.sun.aas.javaRoot...` で始まる行を変更します。



**5 Application Server を再起動します。**

```
as-install/bin/asadmin start-domain
```

次の手順 バンドル版バージョン (JDK 1.4.2\_06) よりも前のJDKバージョンからアップグレードする場合、この手順ではJ2SE 5.0以降にアップグレードできません。具体的には、この手順に加えて、既存のドメインをすべて削除し、再度作成する必要があります。



## 既知の問題と制限事項

---

この章では、Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 製品に関する既知の問題とそれに関連する回避策について説明します。問題の説明にプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに当てはまります。この節は次の項目から構成されています。

- 27 ページの「管理」
- 31 ページの「アプリケーションクライアント」
- 32 ページの「データベースドライバ」
- 32 ページの「Deploytool」
- 34 ページの「マニュアル」
- 35 ページの「インストール」
- 37 ページの「ライフサイクル管理」
- 38 ページの「ログ」
- 38 ページの「サンプルアプリケーション」
- 40 ページの「セキュリティー」
- 40 ページの「アップグレードユーティリティー」
- 42 ページの「Web コンテナ」

### 管理

**domain1 が存在しない場合、package-appclient スクリプトが動作しない。(ID 6171458)**

デフォルトでは、asenv.conf によってポイントされる domain1 の AS\_ACC\_CONFIG 変数のハードコードされた値が \$INSTALL/lib/package-appclient.xml にあります。domain1 を削除して新たなドメインを作成した場合、AS\_ACC\_CONFIG 変数は新たなドメイン名で更新されません。その結果、package-appclient スクリプトの処理が失敗します。

#### 解決法

次のいずれかを行います。

- domain1 はそのままにしておき、その前後に別のドメインを作成します。

- `domain1` を削除し、`$INSTALL/lib/package-appclient.xml` の `domain1` にハードコードされた値を新しいドメイン名で置き換えます。`domain1` がない場合、新たなドメインが作成されるたびにこれを行う必要があります。

### バックアップしたドメインを別の名前でも復元できない。(ID 6196993)

同一の Application Server インストール上では、`backup-domain` コマンドと `restore-domain` コマンドを使用してドメインをミラーリングできません。これは、`asadmin` `restore-domain` コマンドにドメイン名を変更するオプションがあっても、元の名前ではなく、別の名前でもドメインを復元できないからです。バックアップされたドメインの名前を正常に変更したように見えても、名前を変更されたドメインの起動は失敗します。ドメイン設定のエントリは変更されておらず、`startserv` および `stopserv` は元のドメイン名を使用してパスを設定するからです。

### 解決法

`restore-domain` で使用するドメイン名は、元の `backup-domain` コマンドで使用したドメイン名と同じである必要があります。Application Server 8.2 の `backup-domain` コマンドと `restore-domain` コマンドが動作するのは、同一マシンで同一ドメインをバックアップおよび復元する場合だけです。

### JMX エージェントを追加した Application Server の起動はサポートされていない。(ID 620011)

J2SE 1.4.x、5.0、またはそれ以降のバージョンは、Application Server で設定できます。J2SE 5.0 プラットフォームの重要な特徴は、JMX エージェントを起動できることです。サーバーの起動時にシステムプロパティを明示的に設定すると、JMX エージェントがアクティブになります。

次に例を示します。

```
name="com.sun.management.jmxremote" value="true"
name="com.sun.management.jmxremote.port" value="9999"
name="com.sun.management.jmxremote.authenticate" value="false"
name="com.sun.management.jmxremote.ssl" value="false"
```

JMX プロパティを設定してサーバーを起動すると、Application Server VM 内で新しい `jmx-connector` サーバーが起動します。この場合は、望ましくない副作用の 1 つとして、管理機能が悪影響を受け、Application Server の管理 GUI や CLI で予期しない結果が発生することがあります。問題は、組み込みの `jmx-connector` サーバーと新たな `jmx-connector` サーバーとの間で衝突が発生することにあります。

### 解決法

`jconsole` または何らかの JMX 互換クライアントを使用する場合には、Application Server とともに起動する標準の JMX コネクタサーバーを再利用することを検討してください。

サーバーの起動時に、次に示すような行が `server.log` に作成されます。ここで指定されている `JMXServiceURL` に接続し、資格を正常に指定した後、同様の管理および設定操作を実行することができます。次に例を示します。

```
[#|2004-11-24T17:49:08.203-0800|INFO|sun-appserver-ee8.1|javax.enterprise.
system.tools.admin|_ThreadID=10;|ADM1501: Here is the JMXServiceURL for the
JMXConnectorServer: [service:jmx:rmi:///jndi/rmi://hostname:8686/management/
rmi-jmx-connector]. This is where the remote administrative clients should
connect using the JSR 160 JMX Connectors.|#]
```

詳細については、『Sun Java System Application Server 8.2 Administration Guide』を参照してください。

任意の仮想サーバーのデフォルト **Web** モジュールとなっている **Web** モジュールの再配備または配備取り消しを行うことができない。(ID 6204799)

Web モジュールが仮想サーバーのデフォルト Web モジュールである場合、その Web モジュールの再配備または配備取り消しを行おうとすると、次のエラーが発生します。

```
Trying to undeploy application from domain failed; Virtual Servers [server]
have <WEB-MODULE-NAME> as default web module. Please remove the default web
module references first. ; requested operation cannot be completed Virtual
Servers [server] have <WEB-MODULE-NAME> as default web module. Please
remove the default web module references first.
```

この時点で domain.xml がエラー状態になっています。管理コンソールは、配備された Web アプリケーションの一覧を表示できない可能性があります。ドメインを停止したあとに再起動したとしても、この状況は変わりません。

#### 解決法

デフォルト Web モジュールを変更します。

### ▼ デフォルト **Web** モジュールを変更するには

- 1 管理コンソールで仮想サーバーのページを表示し、デフォルト **Web** モジュールを空にするか、別の **Web** モジュールに変更します。
- 2 CLI で、domain をターゲットとして指定し **Web** モジュールの配備を取り消します。

```
# asadmin undeploy --target domain <WEB-MODULE-NAME>
```

これで管理コンソールの表示が正しくなります。必要に応じて Web モジュールを再度配備できます。

**Application Server GUI** で **AMX API** を使用して **PE** サーバーに **WAR** および **JAR** を配備すると、FrameworkError 例外が発生する。(ID 6201462)

AMX API を使用して PE にアプリケーションを配備し、そのアプリケーションが参照されないと、Application Server GUI はアプリケーションの表示中にエラーをスローします。AMX では、アプリケーションの参照を明示的に処理する必要があります。たとえば、アプリケーションの配備時に DeployedItemRefConfig を明示的に作成する必要があります。配備プロセスを簡単にするには、PE に参照が存在すると見なしますが、これは Application Server GUI での問題を引き起こします。

## 解決法

リソースまたはアプリケーションを作成したら、それらへの参照を必ず作成します。

### 設定内の Java ホームの設定が反映されない。(ID 6240672)

Application Server のドメインまたはサーバーが、関連付けられた設定の `java-config` 要素の `java-home` 属性によってポイントされる JDK を使用しません。

## 解決法

該当のサーバーインストール内のすべてのドメインに対して Application Server プロセスが使用する JDK は、`appserver-installation-dir/config/asenv.conf` ファイルによって決まります。使用される JDK は、このファイル内のプロパティ `AS_JAVA` によって決まります。これはインストール時に設定されます。インストール後に別の JDK を Application Server プロセスが使用するようにするには、別の JDK をポイントするようにこの値を編集します。この変更によって、このインストール内のすべてのドメインが影響を受けることに注意してください。

---

注-`asenv.conf` ファイルを手動で変更する場合は有効性がチェックされないため、変更時に注意が必要です。`AS_JAVA` の値を修正する場合は、製品のマニュアルで JDK のバージョンの最低限の要件を確認してください。

---

### Selector.select() が IOException をスローし、Application Server の起動が失敗する。(ID 6322825)

現在の JDK コードでは、`/dev/poll` セレクタはセレクタが使用するために `8192 pollfd` エントリの配列を割り当てます。これが `nofiles ulimit` を超過するため、「引数が正しくありません」のエラーで失敗します。さらに、`selector.select()` が壊れているため、起動時に MQ に接続する Application Server のソケットサービスが `IOException` で失敗します。

## 解決法

`pollfd` ファイルの記述子制限を増やします。これには次の 2 つの方法があります。

1. ルートユーザーとしてシェル上で `ulimit -n 8193` を実行します。
2. ファイル記述子の数値の強い制限値を `8193` 以上に増やします。
  - a. `ulimit -n -H` コマンドで強い制限値を確認します。
  - b. `8193` よりも小さい場合は、`/etc/system` を編集して、`set rlim_fd_max=8193` コマンドを追加します。
  - c. マシンをリブートします。

ドメインのマスターパスワードに特殊文字が含まれる場合、ドメインの起動が失敗する。(ID 6345947)

ドメインのマスターパスワードにパーセント文字(%)が含まれるときにドメインが起動しません。

### 解決法

ドメインのマスターパスワードにパーセント文字(%)を含めないようにしてください。これは、新しいドメインを作成するとき、および既存のドメインのマスターパスワードを変更するときに適用されます。

特定の Java システムプロパティが AS 8.2 の起動時に正しく処理されない。(ID 6372759)

次の内容を JVM プロキシ設定に追加すると、サーバーが起動しません。

```
<jvm-options>-Dhttp.proxyHost=webcache.east.sun.com</jvm-options>  
<jvm-options> -Dhttp.proxyPort=8080</jvm-options>  
<jvm-options>-Dhttp.nonProxyHosts="mssp.ctu.gov|*.ctu.gov|localhost"  
</jvm-options>
```

\* 文字を挿入すると、No Class Def Found エラーが発生します (スレッド main java.lang.NoClassDefFoundError: com/sun/enterprise/security/store/IdentityManager の例外)。| 文字を挿入すると、サーバーの起動を待機する起動スクリプトがタイムアウトします。

この機能は、ファイアウォールの内側に存在し、外部サーバーと内部サーバーのどちらにもアクセスすることが必要な Application Server の配備 (およびポータル配備) をサポートするために重要です。この例として、Portal Server URL Scraper があります。これらの設定は、URL Scraper が外部ソースからコンテンツを取得するために必要です。

### 解決法

install-dir/config/asenv.conf ファイルを編集し、AS\_NATIVE\_LAUNCHER="true" の行を AS\_NATIVE\_LAUNCHER="false" に変更します。

## アプリケーションクライアント

この節では、アプリケーションクライアントに関する既知の問題とその解決方法を示します。

アプリケーションクライアントアーカイブのライブラリ JAR が MANIFEST ファイルを上書きする。(ID 6193556)

クライアント JAR (この場合は reporter.jar) 内に最上位レベルの JAR ファイルがある場合、クライアント JAR を配備すると、その JAR の MANIFEST ファイルがクライアント JAR の MANIFEST ファイルを上書きします。

### 解決法

現時点ではありません。

**CGI-bin** や **SHTML** 機能などの動的コンテンツ技術がサポートされていない。(ID **6373043**)

CGI-bin や SHTML などの動的コンテンツ技術のサポートは終了しました。

### 解決法

代わりに JSP または Web サービスの技術を使用してください。

## データベースドライバ

この節では、データベースドライバに関する既知の問題とその解決方法を示します。

**DB2 Type II** ドライバによるアイドルタイムアウトのあとで **DB2 Server** の接続数が増加する。(ID **2082209/5022904**)

別のアプリケーションサーバーからアプリケーションをポート設定した場合、接続がタイムアウトしたあとに物理接続が正しく閉じられません。この問題は、クライアントライブラリ (Type II) ドライバの DB2 8.1.x バージョンで、同じ DB2 7.1.x Database Server に対して見られます。

### 解決法

SteadyPoolSize と MaxPoolSize を同じ値に設定し、Idle Connection タイムアウトを 0 (ゼロ) に設定します。これにより、アイドル状態の接続のタイムアウトが無効になり、ユーザーはすべてのセットの接続を利用できます。

## Deploytool

この節では、Deploytool に関する既知の問題とその解決方法を示します。

**Deploytool** が次の **Sun** 配備記述子に message-destination 要素を作成しないことが頻繁にある。(ID **6197393**)

- sun-application-client.xml
- sun-ejb-jar.xml
- sun-web.xml

「メッセージ送信先」タブの「JNDI 名」に指定された JMS 送信先リソースが Sun 記述子に保存されていない可能性があります。送信先名 (たとえば、create-jmsdest で作成された物理送信先である PhysicalQueue) を指定して Enter キーを押すと、「表示名」の下に「送信先名」が表示され、クライアント名または Bean 名が「プロデューサ」リストに表示されます。「Sun 固有の JNDI 名」テキストフィールドに「jms/Queue」と入力して Enter キーを押すと、アプリケーションはタイトルバー



で「(変更されています)」とは表示されず、エラーが`~/.deploytool/logfile`に書き込まれます。アプリケーションを保存し、「メッセージ送信先」タブに戻ると、「JNDI名」フィールドは再度空白になります。「ツール」、「記述子ビューア」、「Application Server 記述子」の順に選択してSun 記述子を表示すると、`<jndi-name\>`要素内の`<message-destination\>`要素は作成されていません。

問題は、Deploytoolセッション中に「メッセージ送信先のJNDI名」に値を初めて入力すると、Sun 記述子内では値が正しく見えますが、`org.netbeans.modules.schema2beans.BeanProp.setElement()`によって`IllegalArgumentException`がスローされることです。その後、同じアプリケーションまたは別のアプリケーションで「メッセージ送信先のJNDI名」を変更または追加しても、Sun 記述子に保存されません。

### 解決法

既存のメッセージ送信先のJNDI名を編集するには、次の手順に従います。

## ▼ 既存のJNDI名を編集するには

- 1 「JNDI名」テキストフィールドを空白のままにしてEnterキーを押すことで、既存のJNDI名を削除します。
- 2 新しいJNDI名を入力し、Enterキーを押します。
- 3 「ツール」、「記述子ビューア」、「Application Server 記述子」の順にクリックして、Sun 記述子を確認します。
- 4 「ファイル」、「保存」の順にクリックして、アプリケーションを保存します。JNDI名がSun 記述子に保存されていない場合は、次の手順に従います。
- 5 Deploytoolを再起動します。
- 6 「メッセージ送信先」タブでメッセージ送信先を選択するか、新しいメッセージ送信先を追加します。
- 7 「Sun固有のJNDI名」テキストフィールドにメッセージ送信先のJNDI名を入力し、Enterキーを押します。
- 8 「ツール」、「記述子ビューア」、「Application Server 記述子」の順にクリックして、Sun 記述子を確認します。
- 9 「ファイル」、「保存」の順にクリックして、アプリケーションを保存します。Deploytoolのセッション中に初めて「JNDI名」テキストフィールドに値を入力する場合を除き、「メッセージ送信先」タブで「Sun固有のJNDI名」に値を入力する必要があるが生じたときにこの手順を繰り返します。

簡体字中国語の **Deploytool** で、「**Home**」が「**installation directory**」と誤って翻訳されている。(ID 6203658)

**Deploytool** で **Enterprise Bean** を作成し、**Bean ノード** の「**トランザクション**」タブまたは「**セキュリティ**」タブを表示すると、「**Local Home**」および「**Remote Home**」のラベルが「**Local Installation Directory**」および「**Remote Installation Directory**」と誤って翻訳されています。

## マニュアル

この節では、マニュアルに関する既知の問題とその解決方法を示します。

記載されている監視機能の一部が **Platform Edition** に適用されない。(ID 6202255)

**AMX (Application Server Management eXtensions)** に関する記述に、**Application Server Platform Edition 8.2** で使用できない監視機能が含まれます。具体的には、**Platform Edition** で監視できないコンポーネントは次のとおりです。

### ■ **Production Web Container (PWC):**

- PWC HTTP サービス
- PWC 接続キュー
- PWC スレッドプール
- PWC DNS
- PWC キープアライブ
- PWC ファイルキャッシュ
- PWC 仮想サーバー
- PWC 要求

### **Web モジュール**

- SessionSize
- ContainerLatency
- SessionPersistTime
- CachedSessionsCurrent
- PassivatedSessionsCurrent

### **StatefulSessionStore**

- CheckpointCount
- CheckpointSuccessCount
- CheckpointErrorCount
- CheckpointedBeanSize
- CheckpointTime

## 解決法

すべて不要です。これらの統計情報は、**Platform Edition** に関係しません。

マニュアルで `AppservPasswordLoginModule` が `AbstractPasswordLoginModule` と記載されている。(ID 6229682)

『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Developer's Guide』の『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Developer's Guide』の第2章「Securing Applications」の『Sun Java System Application Server Platform Edition 8.2 Developer's Guide』の「Realm Configuration」の節で、誤って `com.sun.appserv.AbstractLoginModule` と記述されています。ただし現在では、このクラスは `com.sun.appserv.AppservLoginModule` という名前が付けられています。

### 解決法

`com.sun.appserv.AbstractLoginModule` の代わりに、`com.sun.appserv.AppservLoginModule` としてください。

### 8.2 PE のマニュアルページで `--passwordfile` の `-w` 短縮型オプションが不正。(ID 6373588)

`--passwordfile` には短縮型のオプションはありません。現在、マニュアルページに `-w --passwordfile` という記載があります。これは誤りです。

### 解決法

Application Server 8.2 Platform Edition で `-w` オプションを使用して `--passwordfile` を使用しないでください。この短縮型オプションは将来の Application Server リリースで追加される予定です。

いくつかの **AMX** インタフェースおよびメソッドについて、**Javadoc** が欠けているか間違っています。(複数の ID)

- `NumConnAcquired` 統計値と `NumConnReleased` 統計値の getter メソッドが `ConnectorConnectionPoolStats` および `AltJDBCConnectionPoolStats` から欠けている。これらの getter メソッドは、将来のリリースで `getNumConnAcquired()` および `getNumConnReleased()` として追加される予定です。
- `EJBCacheStats` 内で `getPassivationSuccesses()`、`getExpiredSessionsRemoved()`、`getPassivationErrors()`、`getPassivations()` の各メソッドを呼び出すと例外がスローされる。これは将来のリリースで解決される予定です。
- サーバーを起動したあと、すべての **AMX MBeans** が登録されて利用できるようになるまでに数秒を要することがある。将来のリリースでは、**AMX MBeans** が完全にロードされたことを確認できるようになる予定です。
- 定数 `XTypes.CONNNECTOR_CONNECTION_POOL_MONITOR` のスペルに誤りがある(「NNN」)。これは将来のリリースで訂正される予定です。

## インストール

この節では、インストールおよびアンインストールに関する既知の問題とその解決方法を示します。

インストーラおよびアンインストーラの「ようこそ」画面で、「次へ」のナビゲーションボタンの表示に失敗することがある。(ID 4977191)

この問題は Solaris x 86 プラットフォームで報告されることがありますが、Solaris SPARC および Linux プラットフォームでも発生する可能性があります。

インストーラまたはアンインストーラが最初に表示する画面で、すべてのテキストと「ヘルプ」および「取消し」の各ボタンは正しく表示されますが、次の画面に移動するための「次へ」ボタンが表示されません。ボタンが見えなくてもその部分は有効で、クリックすると次の画面に正しく移動します。問題の原因は、J2SE GUI の再表示が途切れることにあります。

### 解決法

1つの回避策として、「ヘルプ」ボタンの左側の「次へ」ボタンが表示されるはずの部分をクリックする方法があります。もう1つの回避策としては、画面のサイズをわずかに変えるか、一度最小表示にしてから再表示することによって、画面を強制的に再描画する方法があります。再描画後は「次へ」ボタンが見えるようになります。

一部の Linux システムで、「完了」ボタンをクリックしたあとにインストーラの終了でハングアップする。(5009728)

この問題は、いくつかの Linux システム上で発生していました。これは Java Desktop System 2 でもっとも一般的に見られますが、RedHat ディストリビューションでも見られます。

インストーラの最後の画面で「完了」ボタンをクリックすると、インストーラは製品の「バージョン情報」ページまたは製品登録ページを表示するブラウザウィンドウの起動に失敗し、コマンドプロンプトに戻ることなくハングアップしたままになります。

### 解決法

インストーラを起動した端末ウィンドウで Ctrl+C を押してインストーラを終了します。そのあとで、製品の「バージョン情報」ページまたは登録ページを表示するブラウザウィンドウが起動することがあります。ブラウザウィンドウが現れない場合には、ブラウザを起動してから次の URL を入力して「バージョン情報」ページを確認してください。

```
file://install_dir/docs/about.html
```

製品を登録するインストールオプションを選択した場合には、「バージョン情報」ページ上の登録ページへのリンクをたどってください。

Linux 上のインストーララッパーで J2SE の検出およびブートストラップに問題が発生することがある。(6172980)

Linux インストーラを起動する setup 実行可能ファイルがハングすることがあります。J2SE の場所を解決してインストーラウィザードを起動せずに、ラッパーがハングし、次のメッセージを返します。

```

Chcking available disk space....
Checking Java(TM) 2 Runtime Environment....
Extracting Java(TM) 2 Runtime Environment....
Deleting temporary files.....

```

この問題はLinuxの一部のバージョンで見られ、特にJAVA\_HOME変数が存在する場合など環境設定に依存するようです。

### 解決法

この問題を回避するには、次の手順に従います。

## ▼ Linux上のブートストラップの問題を回避するには

- 1 シェルに応じてunsetまたはunsetenvを実行して、JAVA\_HOME変数の設定を解除します。
- 2 -javahomeオプションを使用してsetupを実行して、インストーラが使用するJAVA\_HOMEを指定します。

## ライフサイクル管理

この節では、ライフサイクル管理に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ejb-timer-serviceプロパティーminimum-delivery-intervalを9000に設定したあとで、ejb-timer-serviceプロパティーredelivery-interval-in-millisを7000に設定しようとする、setコマンドが次のエラーで失敗する。(ID 6193449)

```

[echo] Doing admin task set
[exec] [Attribute(id=redelivery-interval-internal-in-millis) : Redelivery-Interval (7,000) should be greater than or equal to Minimum-delivery-interval-in-millis (9,000)]
[exec] CLI137 Command set failed.

```

- minimum-delivery-interval は、同一の周期タイマーの最小発生間隔。
- redelivery-interval-in-millis は、失敗したejbTimeoutのあとに再発生を試みるまでタイマーサービスが待機する時間。

これは、再発生間隔のプロパティーを最小発生間隔のプロパティーと関連付けるロジックが間違っていて、GUIまたはCLIを使用して再発生間隔よりも最小発生間隔が大きくなるような値を設定できないという問題です。

minimum-delivery-interval-in-millisを、ejb-timer-serviceプロパティーのredelivery-interval-in-millis以上の値に設定する必要があります。問題は、redelivery-interval-in-millisの値がminimum-delivery-interval-in-millisの値よりも大きいことを検証するためのApplication Serverの処理にエラーがあることです。

### 解決法

次のように、これらプロパティーのデフォルト値を使用します。

```
minimum-delivery-interval(default)=7000  
redelivery-interval-in-millis(default)=5000
```

これらデフォルト以外の値を指定するとエラーが発生します。

## ログ

この節では、ログに関する既知の問題とその解決方法を示します。

`access.failure` のデバッグ文を設定すると、**Application Server** の起動時にハングする。**(ID 6180095)**

JVM の `java.security.debug` オプションを設定すると、サーバーインスタンスの起動がデッドロックで動かなくなります。たとえば、`domain.xml` で次の設定を行うと、この問題が発生します。

```
<jvm-options>\>-Djava.security.debug=access,failure</jvm-options>
```

### 解決法

現時点ではありません。このフラグは設定しないでください。

## サンプルアプリケーション

この節では、Application Server 8.2 製品に付属するサンプルコードに関する既知の問題とその解決方法を示します。

`managementws` サンプルで、`MANIFEST.MF` の参照を `castor-0.9.3.9-xml.jar` から `castor-0.9.9.1.jar` に更新する必要があります。**(ID 6363339)**

`<install_dir>/samples/webservices/jaxrpc/apps/managementws` でベリファイアを実行すると、次の警告が表示されます。

```
[exec] WARNING: /var/tmp/exploded20051214111425/managementws/ \  
managementwsEjb_jar contains library/castor-0.9.3.9-xml.jar in Class-Path  
manifest attribute, but it is not found in ear file  
[exec] Dec 14, 2005 11:14:30 AM Archive getBundledArchives  
[exec] WARNING: /var/tmp/exploded20051214111425/managementws/ \  
managementwsEjb_jar contains library/castor-0.9.3.9-xml.jar in Class-Path  
manifest attribute, but it is not found in ear file
```

Castor jar は Application Server 8.2 リリースで更新されたため、古い `castor-0.9.3.9-xml.jar` への参照をすべて新しい `castor-0.9.9.1.jar` をポイントするように変更してください。特に、`MANIFEST.MF` ファイル内の参照を、古い `castor-0.9.3.9-xml.jar` ではなく、`castor-0.9.9.1.jar` を使用するように変更する必要があります。

## 解決法

次の古い Castor jar への参照を、新しい Castor jar をポイントするように変更してください。

旧:

```
src/conf/MANIFEST.MF:Class-Path: library/castor-0.9.3.9-xml.jar
src/conf/MANIFEST.MF:Name: library/castor-0.9.3.9-xml.jar
managementws-ejb/src/conf/MANIFEST.MF:Class-Path: \
library/castor-0.9.3.9-xml.jar
```

新:

```
src/conf/MANIFEST.MF:Class-Path: library/castor-0.9.9.1.jar
src/conf/MANIFEST.MF:Name: library/castor-0.9.9.1.jar
managementws-ejb/src/conf/MANIFEST.MF:Class-Path: \
library/castor-0.9.9.1.jar
```

次に、build.xml ファイルをクリーンアップして、Castor.jar が配備中に install\_dir /lib にコピーされたり、配備の取り消し中に削除されたりしないようにします。次に新旧の build.xml ファイルの違いを示します。

```
% cvs diff build.xml Index: build.xml
=====
RCS file: /m/jws/samples/samples8x/webservices/jaxrpc/apps/managementws/ \
managementws-standalone-client/ Attic/build.xml,v retrieving revision \
1.1.2.3
diff -r1.1.2.3 build.xml
80,89d79
< <target name="remove_castor_from_classpath">
< <delete file="${com.sun.aas.installRoot}/lib/castor-0.9.9.1.jar"/>
< </target>
< <target name="add_castor_to_classpath">
< <delete file="${com.sun.aas.installRoot}/lib/castor-0.9.9.1.jar"/>
< <copy file="../lib/castor-0.9.9.1.jar" \
todir="${com.sun.aas.installRoot}/lib" />
< </target>
<
< <target name="setup" depends="add_castor_to_classpath, restart.server"/>
< jbenoit/galapago 196 >pwd
/net/galapago.east/files/share/8.2ws/samples/samples8x/webservices/jaxrpc \
/apps/managementws/managementws-standalone-client
jbenoit/galapago 197 >cd ..
jbenoit/galapago 198 >cvs diff build.xml
Index: build.xml
=====
RCS file: /m/jws/samples/samples8x/webservices/jaxrpc/apps/managementws/ \
Attic/build.xml
```

```

v retrieving revision 1.1.2.4
diff -r1.1.2.4 build.xml
28,36d27
< <target name="setup">
< <ant antfile="build.xml" inheritAll="true" dir="${sample.name}$ \
{standalone-client-dir-suffix}" target="setup"/>
< </target>
<
< <target name="unsetup">
< <ant antfile="build.xml" inheritAll="true" dir="${sample.name}$ \
{standalone-client-dir-suffix}" target="remove_castor_from_classpath"/>
< </target>
<
<
53,54c44,45
< <target name="deploy" depends="select_binary_common, deploy_common,
setup" />
< <target name="undeploy" depends="init, undeploy_common, unsetup"/>
---
> <target name="deploy" depends="select_binary_common, deploy_common" />
> <target name="undeploy" depends="init, undeploy_common"/>

```

## セキュリティ

この節では、セキュリティに関する既知の問題とその解決方法を示します。

### WSセキュリティ:アプリケーションクライアントコンテナが JAXRPC クライアントランタイムと正しく統合されていない。(ID 6325469)

アプリケーションクライアントが、ほかの Web サービスクライアントにユーザー名とパスワードを渡していません。

#### 解決法

必要に応じて、次のようにクライアントプログラムにユーザー名とパスワードの組み合わせを明示的に渡します。

```

((Stub)yourWSPort)._setProperty(Stub.USERNAME_PROPERTY, "yourUsername");
((Stub)yourWSPort)._setProperty(Stub.PASSWORD_PROPERTY, "yourPassword");

```

## アップグレードユーティリティー

この節では、アップグレードユーティリティーに関する既知の問題とその解決方法を示します。



**Application Server Platform Edition 8 から Application Server Platform Edition 8.2 へのアップグレードで、*install\_dir* /domains ディレクトリ以外のカスタムパスに作成されたドメインが直接アップグレードされない。(ID 6165528)**

アップグレードユーティリティを実行しているときに、*install\_dir* をソースインストールディレクトリとして指定すると、そのアップグレードプロセスは、*install\_dir* /domains ディレクトリの下に作成されたドメインだけをアップグレードします。その他の場所に作成されたドメインはアップグレードされません。

#### 解決法

アップグレードプロセスを起動する前に、すべてのドメインディレクトリを、それぞれの場所から *install\_dir* /domains ディレクトリに移動します。

**8.0 Platform Edition から 8.2 Platform Edition へのアップグレード後、domain1 または samples ドメインの起動時にポートの衝突が発生する。(ID 6202188)**

複数のドメインを設定している 8.0 Application Server をアップグレードしたあとに、ドメインを同時に起動できません。これは、JMX コネクタ用に同一のポート番号が設定されているためです。

#### 解決法

ポート値を変更します。

### ▼ ポート値を変更するには

- 1 次のエントリについて、*install\_dir* /domains/domain1/config/domain.xml ファイルをチェックします。

```
<jmx-connector accept-all="false" address="0.0.0.0" auth-realm-name="admin-realm" enabled="true" name="system" port="8686" protocol="rmi_jrmp" security-enabled="false"/> -- and in file <as 8.1 install_dir\>/domains/domain1/samples/config/domain.xml, notice it used the same port "8686", so it failed to start domain due to port conflict.
```

- 2 ポート値を 8686 から 8687 に変更し、domain1 を再起動します。

一部の Linux システムで「アップグレードウィザードを起動」ボタンをクリックしたあとに、「同じ場所にアップグレード」を実行するインストーラがアップグレードツールの起動に失敗する。(6207337)

この問題は複数の Linux システムで発生しています。Java Desktop System 2 でもっとも一般的ですが、RedHat ディストリビューションでも発生しています。

インストーラの最後の画面で「アップグレードツールの起動」ボタンをクリックすると、インストーラはアップグレード処理を完了するためのアップグレードツールの起動に失敗し、コマンドプロンプトに戻ることなくハングアップしたままになります。

## 解決法

この問題は、アップグレードを実行するのにコマンド行インストールモードを使用した場合には発生しません。

### ▼ コマンド行インストールモードを使用するには

- 1 GUIモードで代替アップグレードを実行してこの問題が発生した場合には、インストーラを起動した端末ウィンドウで **Ctrl+C** を押すことにより、そのインストーラを終了します。

- 2 その端末ウィンドウから次のコマンドを使用してアップグレードツールを起動します。

```
install_dir/bin/asupgrade --source install_dir/domains --target install_dir
--adminuser adminuser--adminpassword adminpassword --masterpassword changeit
```

*adminuser* および *adminpassword* は、アップグレード中のインストールで使用されている値に一致する必要があります。

- 3 アップグレードツールがアップグレードプロセスを完了したあとは、ブラウザを起動して次の URL を入力することにより、「バージョン情報」ページを参照できます。

```
file://install_dir/docs/about.html
```

製品を登録するインストールオプションを選択した場合には、「バージョン情報」ページ上の登録ページへのリンクをたどってください。

### アップグレード後、「結果」パネルに不要な文字が表示される (ID 6376140)

以前のバージョンの Application Server から複数言語版の Application Server 8.2 へアップグレードすると、「結果」パネルに不要な文字が表示されることがあります。さらに、`/opt/SUNWappserver/domains/upgrade.log` ファイルに不要な文字が表示される場合もあります。

## 解決法

現時点ではありません。この問題は、将来の Application Server リリースで解決される予定です。

## Web コンテナ

この節では、Web コンテナに関する既知の問題とその解決方法を示します。

`--precompilejsp=true` を使用してアプリケーションを配備すると、アプリケーションの JAR ファイルがロックされ、その後の配備取り消しや再配備に失敗することがある。(Windows のみ) (ID 5004315)

Windows にアプリケーションを配備するときに JSP のプリコンパイルを要求すると、それ以降、そのアプリケーションの配備取り消しや、そのアプリケーション(または同一モジュール ID を持つ任意のアプリケーション)の再配備を試みても、予期したとおりに動

作しません。この問題は、JSPのプリコンパイル処理でアプリケーションのJARファイルが開かれたまま閉じられないため、Windowsがこれらのファイルを配備取り消しで削除することや、これらのファイルを再配備で上書きすることを許可しないことにあります。

配備取り消しは、Application Serverからアプリケーションが論理的に削除されるという点では成功します。また、asadminユーティリティからエラーメッセージは返されませんが、アプリケーションのディレクトリとロックされたjarファイルはサーバー上に残っています。サーバーのログファイルには、ファイルとアプリケーションのディレクトリの削除に失敗した旨のメッセージが出力されます。

配備取り消し後のアプリケーションの再配備が失敗するのは、既存のファイルとディレクトリをサーバーが削除しようとして失敗するからです。これは、最初に配備されたアプリケーションと同じモジュールIDを持つアプリケーションを配備しようとしたときにも発生します。アプリケーションのファイルを保持するディレクトリの名前を、サーバーはモジュールIDから決定するからです。

同様の理由から、配備取り消しをせずにアプリケーションを再配備しようとするとう失敗します。

## 診断

アプリケーションを再配備しようとする、または、配備取り消しを行ってから配備しようとする、asadminユーティリティは次のようなエラーを返します。

```
An exception occurred while running the command. The exception message is: CLII171 Command deploy failed : Deploying application in domain failed; Cannot deploy. Module directory is locked and can\qt be deleted
```

## 解決法

アプリケーションの配備時に `--precompilejsps=false` を指定すると(デフォルト設定)、この問題は発生しません。そのアプリケーションを最初に使用するときJSPコンパイラが起動されるため、最初の要求に対する応答時間は、その後の要求に比べて長くなります。

また、プリコンパイルを行う場合には、そのアプリケーションを配備取り消しまたは再配備する前に、サーバーを終了して再起動する必要があります。シャットダウンすると、ロックされているJARファイルが解放されるため、再起動後の配備取り消しや再配備が成功します。

空の `<load-on-startup>` 要素を持つ **Servlet 2.4** ベースの `web.xml` を使用して **WAR** を配備できない。(ID 6172006)

`web.xml` のオプションの `load-on-startup` サブレット要素は、関連付けられているサブレットを宣言する Web アプリケーションの起動の一環として、そのサブレットをロードおよび初期化すべきことを示します。

この要素のオプションの内容は、Web アプリケーションのその他のサーブレットとの関係で、そのサーブレットをロードおよび初期化する順序を示す整数です。空の `<load-on-startup>` は、そのサーブレットを含む Web アプリケーションの起動時にそのサーブレットがロードおよび初期化される場合、その順序は意味を持たないことを表します。

web.xml の Servlet 2.4 スキーマでは、空の `<load-on-startup>` はサポートされなくなりました。つまり、サーブレット 2.4 ベースの web.xml を使用する場合は整数値を指定する必要があります。空の `<load-on-startup/>` の場合と同様に、空の `<load-on-startup>` を指定すると、web.xml が web.xml のサーブレット 2.4 スキーマに対する妥当性検証に失敗するため、Web アプリケーションの配備も失敗します。

下位互換性の問題もあります。空の `<load-on-startup>` は、Servlet 2.3 ベースの web.xml では有効です。

### 解決法

Servlet 2.4 ベースの web.xml を使用する場合は、`<load-on-startup>0</load-on-startup>` を指定して、サーブレットの読み込み順序が問題にならないことを示します。

リソースに制約のあるサーバー上で JSP ページをコンパイルできない。(ID 6184122)

JSP ページにアクセスしてもコンパイルに失敗し、サーバーログには「Unable to execute command」というエラーメッセージと次のスタックトレースが記録されます。

```
at org.apache.tools.ant.taskdefs.Execute$Java13CommandLauncher.exec
(Execute.java:655) at org.apache.tools.ant.taskdefs.Execute.launch
(Execute.java:416) at org.apache.tools.ant.taskdefs.Execute.execute
(Execute.java:427) at org.apache.tools.ant.taskdefs.compilers.
DefaultCompilerAdapter.executeExternalCompile(DefaultCompilerAdapter.
java:448) at org.apache.tools.ant.taskdefs.compilers.JavacExternal.
execute(JavacExternal.java:81) at org.apache.tools.ant.taskdefs.Javac.
compile(Javac.java:842) at org.apache.tools.ant.taskdefs.Javac.execute
(Javac.java:682) at org.apache.jasper.compiler.Compiler.generateClass
(Compiler.java:396)
```

### 解決法

JSP のコンパイルスイッチを fork から false に設定します。

これは、次のいずれかの方法で行えます。

- グローバルに行うには、次のように、`${S1AS_HOME}/domains/domain1/config/default-web.xml` 内の `JspServlet` の `fork init` パラメータを false に設定します。

```
<servlet> <servlet-name>jsp</servlet-name> <servlet-class>org.apache.
jasper.servlet.JspServlet</servlet-class> ... <init-param> <param-name>
fork</param-name> <param-value>>false</param-value> </init-param> ...
</servlet>
```

- Web アプリケーションごとに、`sun-web.xml` の JSP 設定プロパティ `fork` を `false` に設定します。次のようにします。

```
<sun-web-app\> <jsp-config\> <property name="fork" value="false" /\>
</jsp-config\> </sun-web-app\>
```

これらのいずれかを設定することにより、`ant` が `javac` コンパイルのための新規プロセスを生成することが防止されます。

### マルチ CPU のマシンでパフォーマンスが低下する。(ID 6194026)

Application Server PE のデフォルト設定では、マルチ CPU のマシンで最適に動作しません。その代わりに起動が高速化されていますが、Web アプリケーションのパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。

#### 解決法

Application Server の設定を変更して次の JVM オプションを使用します。

```
-Dcom.sun.enterprise.server.ss.ASQuickStartup=false
```

不正な **Fast Infoset** ドキュメントを受け取ると、**JAX-RPC** 配備サービスの **Fast Infoset** サポートが無効になることがある。(ID 6368670)

仕様に準拠しない **Fast Infoset** でエンコードされた SOAP メッセージが JAX-RPC サービスに送信されると、サービスは適切にエラーを返します。また、そのあとに仕様に準拠する **Fast Infoset** でエンコードされた SOAP メッセージが同じサービスまたは同じ JAX-RPC ランタイムを使用するように配備されたサービスに送信されると、不正に障害が発生する可能性があります。

#### 解決法

次の回避策があります。

- クライアントで **Fast Infoset** を無効にして、XML でエンコードされた SOAP メッセージだけが送信されるようにします。
- サービスを配備するコンテナを再起動して、仕様に準拠する **Fast Infoset** でエンコードされた SOAP メッセージを送信できるようにします。

